

2002
8月

No. 276

府会だより

日本共産党京都府会議員団

2002年6月定例府議会

◆ 6月議会を終えて(談話)

西山 秀尚……………2

◆ 京都府議会定数は正について……………4

定数条例案討論 岩田 隆夫……………5

◆ 代表質問 梅木 紀秀……………6

◆ 一般質問 光永 敦彦……………8

三双 順子……………9

島田 敬子……………10

◆ 常任委員会審議……………11

◆ 新しい委員会所属……………13

◆ 特別委員会審議……………13

◆ 議案討論 高橋 昭三……………15

◆ 意見書案討論 太田 勝祐……………15

意見書案・請願に対する各党の態度……………16

KBS「政治を語る」

◆ 循環型社会をめざして……………17

光永 敦彦……………17

◆ 京都産業の創造と活性化……………17

高橋 昭三……………17

二〇〇三京都府議会議員選挙

◆ 京都府議選候補者を発表……………18

新人予定候補の決意……………18



知事選挙での森川さんの大善戦と府民

日本共産党府議団

府民の

だが、「導入」を国に要望する態度を変えなかった。

さらに、知事は「現場・現地主義」を標榜しているが、亀岡市畑野における違法な採石と不法投棄の結果、住民が災害におびえている事態に、わが党議員が「長靴を履いてでも現場に行き、住民の不安の声を聞くべきだ」と求めたのに対し、「ヘリコプターで現地は見た」と答えるなど、口先だけの「現場・現地主義」であることを露呈した。

府民の願いを 意見書案として提案

わが党議員団は、八つの意見書案を提案したが、オール与党はすべて否決した。

(16ページに詳細)

民主・府民連合は、国会では要求している「住基ネットの凍結」「30人以下学級の早期実施」の意見書について自民党とともに反対した。

自民党など与党会派は、「有事法制」を、「国民の生命、財産を守るための法整備」と、あたかも自然災害に備えるかのようにごまかし、「慎重な国会審議」と「国民的な合意が得られるよう」求める意見書案を突然提出した。これには「制定を求める」文言はなく、国民的な運動と世論の広がり、自民党などが追いつめられていることを示すものである。しかし、「緊急事態に対応する法整備」とは「有事法制」そのものであり、わが党議員団は、対案として「有事法制は憲法違反。撤回を求める意見書案」を提出した。

また、民主・府民連合が中心になって与党会派は、「道路特定財源」の確保と第二名神などの高速道路整備を求める意見書案を提出した。民主党は国政の場では「道路特定財源の一般財源化」や「高速道路の凍結」を求めており、政党としての一貫性のなさを露呈。わが党議員団は、高速道路優先でなく一般国道、府道や市町村道などの道路整備を急ぐこと、「道路特定財源制度を廃止し、一般財源化すること」を求める意見書案を提案した。

本来、議会在国政に対し意見書を提出するのは、府民の声を国政に反映させるためのものである。ところが、与党会派は、ことごとく府民の願いに背を向けてきた。これは、どの党が本場に府民の立場にたっているのかを浮きぼりにするものである。

党利党略の監査委員たらい回し

今議会開会中に、公明党の監査委員が突然「一身上の都合」と辞任、新委員選任への同意案件が提出された。これは、副議長につき監査委員のポストをたらい回しし、職務をもてあそぶものであり反対した。

いっせいで地方選挙勝利に全力

いっせいで地方選挙まで八カ月。今議会で、府民の立場にたつて奮闘するわが党の役割の重要性がますます明らかになった。

わが党は、定数削減のもとでも、必ず現有15議席を守るとともに、二名区はもちろん一名区でも勝利し、郡部地域での議席の拡大など、新たな峰を築くため全力をあげて奮闘する。府民のみなさんの大きなご支援を心から訴えるものである。

委員会のモニター公開が 始まりました

連日、50名を超える傍聴者

六月定例会から、常任委員会、特別委員会の審議がモニターテレビで公開されました。

議会棟ロビーに並んだ六台のモニターテレビ画面にそれぞれの委員会審議の画像が放映され、支給されるイヤホンのダイヤル操作で、希望する委員会の音声を聞くことができます。



府議会ホームページ上で
の議事録の公開とあわせ、
大変好評です。
日本共産党
は、引き続き
議会の公開の
一層の前進を
めざします。

定数削減 問題

自民党と新政会が定数三減を強行 賛否同数のなか「議長裁決」で

自民党と新政会は、府議会議員定数を、北区、上京区、宮津市・与謝郡で一名ずつ削減し、総定数六十五から六十二への減員を強行しました。

本会議における採決は、三減案

日本共産党―人口比例配分、 二倍以上の格差をなくす主張

民主・府民連合と公明党・府民会議提案の 「二増二減」に賛成

日本共産党議員団は、総定数を六十九名とし、選挙区の定数は、人口に比例した配分をおこなう八増四減案と、中郡・熊野郡と竹野郡の合区（定数二）案を各党派に示しました。これで一票の格差は最大一・七倍となり、人口の多い選挙区の定数が人口の少ない選挙区の定数よりも少ないという「逆転区」も、すべて解消できるものでした。

民主・府民連合と公明党・府民会議は、総定数を現行の六十五名

日本共産党の主張―8増4減

- ①総定数を地方自治法で定められた上限の69に。
- ②各選挙区定数を人口比例配分に。
- ③いまの制度上でもできるだけ1人区を減らす。

京田辺市・綴喜郡	1 ↓ 2	宮津市・与謝郡	2 ↓ 1
西京区	2 ↓ 4	上京区	3 ↓ 2
宇治市・久世郡	4 ↓ 5	北区	4 ↓ 3
相楽郡	2 ↓ 3	舞鶴市	3 ↓ 2
伏見区	6 ↓ 8		
山科区	3 ↓ 4		

「中郡・熊野郡1」「竹野郡1」を「中郡・熊野郡・竹野郡2」に。

※人口比例配分で、最大格差1・72倍に、21すべての逆転区が解消できる。

民主・府民連合と公明党・府民会議 の提案―2増2減

京田辺市・綴喜郡	1 ↓ 2	宮津市・与謝郡	2 ↓ 1
西京区	2 ↓ 3	上京区	3 ↓ 2

※最大格差1・82倍に、逆転区は7つに。

自民党と新政会の提案―3減

宮津市・与謝郡	2 ↓ 1	北区	4 ↓ 3
上京区	3 ↓ 2		

※最大格差2・68倍（竹野郡に対して京田辺市・綴喜郡。西京区は2・66倍）、逆転区は13に。

定数問題資料

岩田議員が討論―「財政危機」を言うなら、 大型事業の見直し、議員歳費の引き下げを

自民・新法案では京田辺市・綴喜郡、 西京区の格差が二・六倍



岩田隆夫議員

日本共産党議員団からは岩田隆夫議員が討論に立ちました。

議員定数は、地方自治法で人口に応じて上限が定められ、京都府の上限は六十九名です。また、選挙区定数は、憲法の「法の下での平等」の趣旨から、公職選挙法十五条で人口比例配分の原則を定めています。

強行された定数削減は、上限六十九名を七名も減らすもので、府民の意思を府政に反映させ、行政に対する監視・チェックするという議会の役割を大幅に弱めるものです。

自民党などは、定数削減の理由に「経

費の削減、議会も身を切って」ともつばら府の「財政危機」を口実にしています。しかし、財政を危機にしたのは大型公共事業を優先してきたからで、これにこそメスをいれなければなりません。同時に、

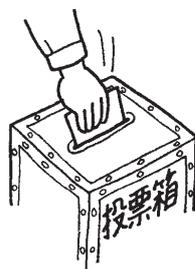
可否同数で「議長裁決」強行は

議会制民主主義の破壊

本来、議会制民主主義の土台でもある議員定数の改正は、すべての会派が一致することが求められます。今回のように「可否同数」という事態のもとで、議長がこれを裁決することは許されないものです。日本共産党議員団は、内容のうえからも、こうした議会運営からも、自民党、新政会の暴挙を断固糾弾する声明を発表しました。

今議会では、府議会の定数は正を検討すること、できるだけ早い時期に是正を

議員歳費を下げるからこそすべきです。しかも、三選挙区の定数を各一名ずつ削減しても、一票の格差は竹野郡と京田辺市・綴喜郡や西京区の間では二・六倍にもなり、「逆転区」が十三通りも残されるもので、とても「定数は正」と言えるものではありません。



おこなうことは各会派の合意になっていました。ところが、実際の協議が始まったのは十一日の会期末前日で、しかも、日本共産党議員団を排除し、与党会派のみで協議をしました。与党会派の密室での協議が難航し、与党会派が分裂したのは、それぞれの会派が、地方自治法や公職選挙法にもとづき民主的に議員定数を是正するのではなく、党派的利益を優先しあつた結果です。

新 知 事

切実な府民の声にこたえず 国言いなりの答弁に終始

知事の基本姿勢は

府民の批判を受けとめ
国にはつきりものを
言いつべき

梅木議員は、最初に知事の基本姿勢を問いました。

知事選挙の結果に示された暮らしを応援する府政への転換を求める府民の声を、どう受けとめるかを質問。

また、知事は「国にはつきりものを言う」と言ったが、消費税増税、医療・介護の負担増、不良債権処理と外形標準課税の導入など国の悪政をどう考えるか。ただし、府民の立場から国にはつきりともを言うことを求めました。

有事法制では、府内の市町村議会、全

国の自治体で法案撤回や慎重審議を求める意見書が相次ぐなか、府民の安全を守り、憲法を守る義務を負う知事として、反対の態度表明を求めました。

医療保険制度の改悪では、国民負担の押しつけに反対し、診療報酬の再改定を国に求めるべきと知事の答弁を求めました。

知事は、有事法制について法的整備は必要、国において納得の行く議論をと答弁。医療改悪についても「給付と負担のバランス」が必要と国言いなりの姿勢に終始しました。

外形標準課税

中小企業つぶしの導入を
なぜ国に求めるのか

府は「政府要望」の冒頭に、中小企業団体がこぞって反対している外形標準課

税の導入を要望しています。府内の中小企業の七〇％が赤字で、融資の返済など資金繰りに四苦八苦しているこの時期に、外形標準課税の導入を求めるのは京都経済を破壊するものと指摘、答弁を求めました。

知事は、府財政の安定のために早期導入を求めると答弁。中小零細企業の実態を何ら考慮しようとしませんでした。

市町村合併

地方自治破壊の
押しつけやめよ

次に市町村合併の問題では、総務大臣の市町村を脅かすような発言を強く批判。国言いなりの押しつけをやめるように強く求めました。

知事は、押しつけの実態は認めず、市町村や住民による自主的な論議が行なわ



代表質問

梅木 紀秀 議員

れているとして、いつその合併推進の態度を明らかにしました。

梅木議員は府の調査でも、市町村合併が「すぐにでも必要」と答えた人は八・三％、七五・七％が、「急ぐ必要がない」と答えていることを紹介。住民参加や情報公開についても知事の考えを問いました。

さらに、合併しない市町村への支援、村おこしの支援について質問、合併しないことを選択した町村への支援を強く要求しましたが、知事はまともな答えをしませんでした。

雇用、営業、環境、健康など

府民生活守る緊急の課題にこたえよ

次に府民生活を守る緊急の課題として、雇用問題、ヤミ金融の被害、借換融資制度、食品添加物問題、産業廃棄物の不法投棄問題について、具体例をあげて府の取り組みの強化を強く要求しました。

京都の雇用状況は依然として深刻ですが、雇用確保には、府政のおおもとを福祉、教育、生活密着型の公共事業重視に転換させることが必要と指摘。同時に解雇の社会的な規制と企業への働きかけを求めました。また緊急雇用対策基金事業や失業者に対する融資制度の改善も強く求めました。

ヤミ金融問題では、府登録業者のホームページ上での公開を求め、充実を約束しました。

住宅改修助成

府の制度として ただちに検討を

府民の大きな要求になってきている住宅改修制度と小学校入学前までの乳幼児医療費助成制度について、梅木議員は全国と府内の流れを紹介、強く実現を求めまし

たが、知事はこれまでの府政とまったく変わらぬおびやかなりの答弁で、府民の願いに耳を傾けようとしませんでした。

介護保険

保険料・利用料の 減免制度は緊急の課題 京都府も創設を

介護保険制度では、来年度からの見直しにあたって、保険料、利用料の府の減免制度創設を強く要求するとともに、国に国庫負担割合を引き上げるよう改善を求めるときだと指摘しました。

山田知事は、選挙中のアンケートに答えて「（介護保険は）財政面での対策を含め再検討が必要だ。」としていましたが、消極的な答弁に終始しました。

教育問題では、三十人学級実施を強く要求。知事の考えを問いましたが、「あり方を研究する」と言う冷たい答弁でした。

再質問

再質問に立った梅木議員は、知事の官僚的な答弁は、府民に大きな失望を与えるもの、もっと府民の目線から府政にあたるべきときびしく批判しました。

青年の雇用対策は「待ったなし」 緊急の対策を

「六十社回っても就職が決まらない」など、いっそう深刻さを増している大学生や高校生の就職難について、府内における実態や生の青年の声などを示し、青年独自の相談窓口を設置するなど、全庁あげて青年の就職難を打開するために取り組みと要求しました。

そして、教員や保健師の増員、特別養護老人ホームの整備など、国民生活に必要な分野の仕事を増やせば、青年の雇用拡大につながることを示し、福祉・医療・教育分野での雇用創出を積極的にはかれと迫りました。



議員 光永 敦彦



青年とともに労働相談

理事者は、福祉施策の整備に、今回初めて雇用効果を認めたものの、「これまでから努力してきた」と、青年の深刻な就職難を打開する決意は示されませんでした。

介護保険の来年見直しに むけ、抜本的改善を

来年四月からの二期目にむけて、国・市町村で「見直し」がすすめられている介護保険事業について、介護保険制度導入後二年余りの到達点をふまえて、抜本的な見直し・改善をはかれと要求

しました。

とくに、府の保険料試算でも平均三千六百円と発表されるなど、「保険料の引き上げ必至」との報道があいついでいる保険料・利用料の負担軽減について、国庫負担の引き上げを国に求めるとともに、府独自に、保険料・利用料の減免制度をつくれと迫りました。

知事は「全力をあげて円滑な推進にとりくんでいる」と官僚的答弁に終始し、府独自の減免制度については、理事者が「現行制度の活用を促している」と答えるだけでした。

中山間地をはじめ、 遅れている基盤整備を 計画的にすすめよ

特別養護老人ホーム待機者が三千六百四十人と介護保険施設が不足し、民間頼みのやり方が破たんするなかで、いつでも安心して利用できるよう、遅れている基盤整備を計画的にすすめよと要求しました。

そして、在宅介護支援センターのネットワークを構築するための支援をつよめ、「介護予防・生活支援事業」への府の全面的な支援を強化せよと要求。また、情報公開と住民参加を積極的にすすめ、高齢者の介護・生活保障のための総合的システムの確立に全力をあげよと強く迫りました。



三双 順子 議員

不法許した府の責任は重大

亀岡市畑野町で十年近く行なわれた違法採石、産廃の不法投棄によって、危険な岩山と化した山。専門家も調査報告の中で「防災工事のやり直しが緊急に必要」と指摘しています。

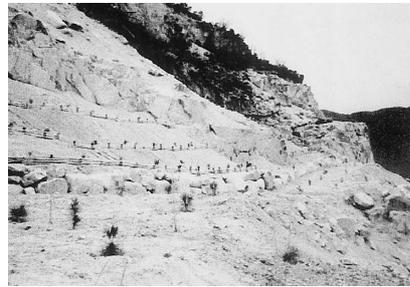
三双議員は、「下に住む住民の不安の声を、知事はどう受け止めているの

これでは住民の安全守れない！

亀岡・畑野の違法採石問題
安全対策つくせ

か」と、パネルを示し府の姿勢を追及。知事は、現地現場主義と言うなら直接現場を見るべきと指摘し、住民への陳謝と早急、万全な安全対策を強く求めました。

しかし、知事は、ヘリコプターで見たと、現場調査を否定しました。



おそまつな「原状回復」工事

食品安全の対策強化を

牛肉、豚肉の「産地偽装」、化学香料などの「違法添加物」、輸入野菜の残留農薬などがクローズアップされています。三双議員は、国民の食生活に大きな不安を与えている問題で、府の

安全対策についてただしました。この中で、食品安全法に定められた施設への立ち入り検査が不十分、専任の衛生監視員が足りない、分析力を高める機器の設置など、体制の充実が急務と指摘。食品表示ウオッチャー制度の導入を求めるとともに、国に食品安全確保法の制定を求めよう求めました。

学校五日制

学童保育の設置、土曜日開設、障害児学童保育への助成を

学校が完全五日制になり、学童保育、学校開放などの公的施設の整備・拡充を求める声が高まっています。ところが府内には学童保育所が未設置や土曜日の開設を中止した自治体があり、父母らの願いに逆行する事態となっています。

三双議員は、学童保育に対する府助成の引き上げなど、市町村への支援をいっそう強めるよう求めました。

また、障害児も安心して学童保育で放課後、土曜を過ごせるよう、独自の助成制度をつくることも求めました。





島田けい子 議員

府民の生命と健康を脅かす、医療の大改悪に知事は反対を

島田議員は、「医療保険制度改革」が、「受診抑制」と「供給抑制」の二本柱で総医療費を抑制し国庫支出を削減するというやり方であり、深刻な不況が続く状況の中で本人負担が三割となればいっそうの受診抑制となり、府民の生命と健康は守れないと指摘。知事に「医療保険改悪法案」にキツパリ反対を求めました。

これに対し知事は、所得者対策を求めていると言いつつ、持続可能な制度構築は必要、「反対だけが実績となるような対応はすべきでない」と、医療

大改悪の中止を求める府民の願いを敵視しました。

地域医療を崩壊する 診療報酬の再改定求めよ

また、島田議員は、四月から実施された診療報酬の改定について、心臓ペースメーカー移植交換手術の場合、京都

の47医療機関中、15機関しか「施設基準」をクリアせず、その他は診療報酬が三割減となる事例を紹介。その上で、改定は「病院経営に壊滅的打撃を与え、地域医療の崩壊につながるもの」であり、国に問題解決のための「診療報酬の再改定」を要求すべきと求めました。

また、人工透析患者の治療食を保険給付外としたことや、四時間以上の透析を超短時間透析に誘導している問題について、国に改善を求めるとともに、改定がされない場合で治療食について本府独自の公費助成を検討すべきと要求しました。併せて、高齢の透析患者の介護について、介護保険制度の見直しなどを国に求めるよう追及しました。

学校の荒れや不登校を放置するな スクールカウンセラーの増員、三十人学級実現を

二〇〇〇年の二月に向日市立勝山中学校の生徒が自殺した問題で、京都弁護士会が、学校の荒れや不登校により教育が受けられない状態を知りえる立場にありながら、同校や向日市教育委員、府教委の対応が不適切だったと認定し、府教委に対し、「速やかな不登校加配教員の配置などとともに、市町村教育委員会に適切な指導、助言、物的援助を行うこと」などを要望したことに関連し質問。

学校に行きたくても行けない不登校の児童・生徒に対して、不登校児童生徒専任の加配措置やスクールカウンセラーの増員、養護教諭の複数配置を求めるとともに、学級編制弾力化、三十人以下学級の早期実現を強く求めました。

府教委は、「要請を真摯に受けとめる。一人ひとりの子どもを大切にしたい取り組みを進める」と答弁しました。

総務

新井 進
梅木 紀秀



住民基本台帳ネットワーク問題

住民基本台帳ネットワークシステム実施に関する条例が提案され、党議員は個人情報保護を優先する立場から実施の延期を求め、条例案に反対しました。

住基法改正にかかわって附則で「個人情報の保護に万全を期するため、速やかに所要の措置を講ずる」と定め、当時の小淵総理も個人情報保護法の制定を約束していますが、総務部長（総務省からの出向）は、「法案は提出されているので、附則はクリアーしている」との見解を表明。また、「個人情報保護法が成立していない」とも、京都府の条例がある」と答弁。

これに対し党議員は、「総務省の役人の立場でなく、京都府の総務部長として考えるべき。住基ネットは京都府だけでなく全国で情報を取り出せるもので、府の条例は適用できないではないか」と厳しく批判しました。

公明党議員は、「個人情報の保護は法で決着済み。予定どおり施行すべき」と賛成の立場から発言しました。

外形標準課税の導入による
大増税、明らかに

また、外形標準課税では、理事者は「増税で

はない。税収の安定化のため」とくり返し答弁しました。しかし、党議員の質問に「総務省が平成元年から十年までの平均税収の確保を目標にした『制度設計』をしているが、京都府のこの時期の法人事業税の税収は平均一〇八三億円で、十四年の税収見込みは六二六億円」と答弁。導入で四五七億円もの大増税になることが暴露されました。

厚生労働

岩田 隆夫
前達義由紀
光永 敦彦



京田辺市に開設する「子ども発達支援センター（仮称）」に関し、向日ヶ丘療育園の施設活用や通園対策などを要望。同和地区への「高校・大学就学奨励事業」は、府民の税金を個人の借金返済にあてる事業であり廃止せよと求めました。

ヘルパー養成事業者の取り消し問題について、再発防止策を要求。峰山町で、町村合併を前提とした「介護保険広域化支援事業」予算が計上されている問題を追及しました。

土曜日の学童保育への支援をつよめ、障害者の実態をふまえた対策強化を求めました。

請願の審査では、「公的就労事業に関する請願」の採択のため奮闘しましたが、与党派は「かつての失対事業を要求するもの」との理由で反対し、不採択にしました。また、与党4会派が紹介議員となった「青少年の健全育成に関する基本法の制定に関する請願」は、全会一致で採択しました。

文教

島田 敬子
三木 一弘
太田 勝祐



新設の養護学校 父母・府民
の意見を生かした学校に

舞鶴に新設する養護学校について、建設地、学校の規模、内容など父母や府民に納得のいく情報公開を求めるとともに、意見を聞く場を保障するために「建設のための検討委員会」の設置を提案しました。

高校就学資金 希望する生徒
には支援を

高校就学資金について、不況の折から予算規模の三百人を超えても、希望する生徒には支援を」と要求。理事者は「必要な対応をしていく」と答えました。

京の伝統工芸品教育活用事業は、雇用の面からも重要であり、ハローワークなどで広く府民や失業者に情報を公開するよう求めました。

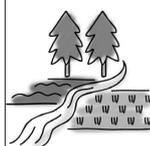
「三十人学級・少人数学級」を求めた請願審査で、日本共産党は、府教委がすすめる習熟度別の少人数授業は差別感、不登校や引きこもりなどを広げかねないと指摘。少人数学級の教育の効果を強調して採択を要求しました。

他会派は、要望と運動の広がりを見無視できず、「個人的には少人数学級に期待するが」（民主）と発言しながら、採決には反対するという道理

のない態度をとりました。

農林商工

松尾 孝
高橋 進



超高利が問題となっている悪徳金融問題で、府登録の貸金業者を府のホームページ上で公開するように求めました。理事者は、その必要性を認めました。

BSE法の施行に伴い来年四月から死亡牛全頭検査が実施され、年間約二百五十頭が対象となることに関し、府内の四焼却炉で処理可能との答弁がありました。高性能の炉の導入や設置場所なども含め検討の余地がないか問題提起をしました。

中山間地直接支払制度の発足から三年目。実施率は、四一〇ha、七九%であること明らかにさせた上で、問題点もあるが、活用いかんで地域農業振興に役立つものであり、対象農地が加入できるように指導援助を強めるとともに、次期計画にむけて改善を国に求めるよう提起しました。米の生産調整を数量配分方式に変更すると共に、生産調整への参加を自主判断にまかせ、過剰米処理は生産者の責任とするなど、多くの問題点を含む、食糧庁の「生産調整に関する研究会」中間まとめが発表されました。この研究会には、府の農産流通課長が参加しており、府としてこれまでどのように対処してきたのかとただすと共に、京都の農業を守る上でも重要であり、府として真剣に検討する必要があると提起しました。

建設

高橋 昭三
西山 秀尚
上坂 愛子



いろいろ呑龍の計画変更の理由、内容、事業費はどうか

桂川右岸流域下水道において、雨水南幹線（いろは呑龍）を洛西浄化センターまで延伸（五百メートル）し、完全貯流型から流下貯流型（大雨時に一部ポンプ排水）に計画変更することが、「建設経済新聞」に報道されたことを受け、その理由、内容、事業費などについていただきました。

理事者は、「現計画の決定時においては、当流域の放流先である桂川への放流が困難であったため、完全貯流型（大雨時に貯流し、晴天時に排水）の計画としていた。しかし、平成十年に日吉ダムが完成したことや、桂川の河川改修が進んだことにより、雨天時の一部放水について桂川の河川管理者である淀川工事事務所の了解が得られた」「工事費は、総事業費五百億円で、従来と変わらない」などと答弁。委員長は、「こうした重大な計画変更が、所管の建設常任委員会に、事前に計られないとはなにごとか」と批判しました。

この他、第二外環の大山崎IC設置にともなう交通量予測と安全対策、西高瀬川に清流を復活させるための対策、六地藏神足線の延伸（伏見区桃山町、宇治市木幡）にかかわる諸問題について取り上げました。

警察

三双 順子
莊司 泰勇



産廃の不法投棄に毅然と対応を

産業廃棄物不法投棄がおこなわれている日吉町志和賀や丹波町富田の事例をあげて、投棄の中止に毅然とした対応を求めました。七月九日朝、警察は日吉町の不法投棄について現行犯逮捕をしました。

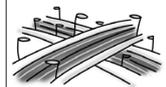
悪徳金融業者による被害がふえているなかで、対策の強化についていただきました。これに対して警察本部は、今年五月までに「悪徳商法110番」に寄せられた件数が三百六十一件、このうち四十九件が高金利問題で六件八名を検挙、二名は無登録業者で一名は逮捕したことを明らかにし、引き続き対応する旨答えました。

そのほか、警察官使用のバイクの更新、DV被害対策、新大宮通りの鴨川橋完成に伴う信号機設置などの交通対策についてもいただきました。

特別委員会

広域交通対策

岩田 隆夫
庄司 泰男



JRR山陰線の複線化事業のメド立たず

JRR山陰線（京都～園部間）の複線化事業について、二年にわたり調査費をつけているが、進捗状況と完成メドはどうかとたじろがしました。交通対策課長は、「着工すれば工事期間は五年、総事業費は二百七十億円だが、現在、工事費の圧縮や京都市域の関連事業など協議中」と答弁。「具体的には、花園～嵯峨間の踏切の立体化、とくに太秦駅～花園間の踏切対策で、京都市との協議、負担区分などでメドが立っていない」と答えました。

中山間地域の足の確保、一般道の整備を

その他、党委員は「中山間地域の足の確保は重要課題」と、府として「市町毎にバス停（町営バスなど）のない集落数や人口把握をすべき」と求めました。また、第二京阪にかかわって、久御山以南の一般道や橋の整備を後回しにすることなく進めべきと要求。理事者は、「国道三〇七号の大坂府域の整備ができるまでは、渋滞を起こすのでやらない」などと、府民の要望とかけはなれた態度をとりました。

環境対策

三双 順子
太田 勝祐
前窪義由紀



産廃不法投棄に毅然たる対応を

党議員が調査、本会議でも取り上げた日吉町志和賀の養豚場跡地への不法投棄が警察により

摘発されました。現場は以前にも不法投棄が行なわれていたところであり、不法投棄の繰り返しを許した当局の姿勢を厳しく問いました。また、丹波町富田など府内各地の不法投棄現場も示し、対応を強く求めました。建設リサイクル法について、府民への啓発・説明の強化を要求。行政が責任をもって進めることを求めました。NPOの活動を支援する地球温暖化推進センターの早期実現と世界水フォーラムに関して、水質汚濁、環境問題について積極的な取り組みを要求しました。

新しい常任委員会、特別委員会の構成について

梅木議員が地方分権等推進特別委副委員長に

常任委員会

	総務 11人	厚生労働 11人	文教 11人	農林商工 11人	建設 11人	警察 10人
共産	高橋 進 新井 進	三双順子 前窪義由紀 光永敦彦	太田勝祐 梅木紀秀 島田敬子	松尾 孝 三木一弘	西山秀尚 高橋昭三 上坂愛子	岩田隆夫 庄司泰男
自民	坪内正一 酒井国生 西田昌司 ◎家元丈夫 ◎高屋直志	小牧誠一郎 清水鴻一郎 植田喜裕 ◎齋藤 彰	高山 寛 石田 昂 林田 洋 ◎小巻寛司	小林弘明 千歳利三郎 ◎近藤永太郎 村田正治	上村卓男 田中英世 ◎梅原 勲 ◎多賀久雄 奥田敏晴	森田喜兵衛 田坂幾太 ◎明田 功 ◎前波健史 菅谷寛志
府民	山脇 闊 ◎熊谷 哲	田中卓爾	◎北岡千はる 武田祥夫	大野征次 山本 正	大橋 健	◎田淵五十生
公明	杉谷孝夫	◎松尾忠昌 澤 照美	◎水口 洋	◎角替 豊 佐藤 宏	坂根康史	池本準一
新政	木村繁雄	◎上田秀男	細井拓一	◎工藤香代子	◎平田吉雄	稲荷義晴

特別委員会

	広域交通対策 11人	環境対策 11人	地域文化振興 11人	防災水資源対策 10人	地方分権等推進 10人	少子高齢化対策 10人
共産	庄司泰男 太田勝祐 前窪義由紀	三双順子 島田敬子 光永敦彦	岩田隆夫 高橋昭三	西山秀尚 高橋 進	松尾 孝 新井 進 ◎梅木紀秀	三木一弘 上坂愛子
自民	◎上村卓男 田中英世 ◎千歳利三郎 梅原 勲	石田 昂 家元丈夫 清水鴻一郎 ◎植田喜裕	◎酒井国生 小巻寛司 ◎村田正治	高山 寛 ◎西田昌司 ◎齋藤 彰 ◎近藤永太郎 ◎菅谷寛志	◎森田喜兵衛 小牧誠一郎 ◎林田 洋 ◎多賀久雄	田坂幾太 高屋直志 前波健史 ◎奥田敏晴 ◎武田祥夫 ◎熊谷 哲
府民	大橋 健 田淵五十生	◎田中卓爾	北岡千はる ◎山本 正	大野征次	山脇 闊	◎佐藤 宏
公明	◎池本準一	角替 豊 ◎澤 照美	坂根康史 水口 洋	杉谷孝夫	松尾忠昌	
新政	稲荷義晴	上田秀男	平田吉雄	◎木村繁雄	工藤香代子	

◎ = 委員長 ○ = 副委員長

また、第二京阪供用にもなう排ガス、騒音対策でジャンクション付近に排ガス常時測定器の設置を求めました。

地域・文化振興

高橋 昭三
三木 一弘
光永 敦彦



「文化芸術振興条例」の制定にむけ歴史と文化の都市である京都として、「京都らしい文化の創造」のため、懇談会などを通じ、多くの関係者、府民の意見を反映するように求めました。京都市が映画産業の振興のための「京都シネメセナ」事業を休止したことに関連し、京都府は、かつて映画「祇園祭」を制作するなど、映画産業への公的支援を行ったことを紹介。「京都文化博物館」での事業の充実と共に、府としての映画産業への助成の実施を求めました。京都府の観光振興についても質問。そのなかで、歴史的文化（財）と地域の産業振興と結び付けた観光振興に役立つマップの作成などを提案しました。

防災・水資源対策

高橋 進
西山 秀尚



地震・水害対策の強化を

地震対策は全国などとの比較ではなく、必要

度から検討すべきだと指摘。特に学校、病院などは弱者の集合地、避難場所にもなるところであるととして、改修の必要度をただしました。これに対し理事者は医療機関は四七・八%、学校は五九・二%と答弁しました。

昨年末、庁内推進本部を設置した世界水フォーラムの準備状況をただとともに、府民が取り組んでいるボランティア活動への支援を求めました。

地方分権等推進

新井 進
梅木 紀秀
松尾 孝



市町村合併の押しつけ許さず

小規模自治体に対しての段階補正の縮小、地方交付税の削減で「合併しかない」と合併推進を進めようとする動きを追及。理事者は、実際の削減額は臨時財政対策債で補完されていると答弁、合併推進の理由にならないことが明確になりました。また、合併特例債により、借金で「ハコモノ」施設が建設されても、将来、施設の維持費をばく大な借金返済で、結果的に財政破綻、住民サービスの切捨てにつながることを指摘、特例債を使った誘導策を強く批判しました。

また、合併の期日の設定についても質問。府が介護保険広域化事業の協議書で合併協議の期限を定めていることを指摘。実際は、府が期日を定めて押しつけを行なっていることを厳しく批判しました。

丹後六町合併について

丹後六町合併について、府は「自主的」な協議を支援していると言っているが、「新都市建設計画」が、すでにコンサルタントに委託されていることを指摘。何よりも住民の意見を広く求め、地域要求をしっかりとこたえるように要求しました。

少子・高齢化対策

上坂 愛子
島田 敬子



「子どもの権利条約」の普及、子どもの人権をまもる課題について、条例でオンブズマン制度をつくった兵庫県川西市の経験なども紹介して、積極的なとりくみを要望。「青少年プラン」の改定にあたって、児童・生徒の声を聞くよう求めました。また、週五日制にもなう養護学校の学童保育の問題について、府教員委員会が真剣に取り組むよう求めました。

議案討論



高橋昭三議員

閉会本会議では、提出議案に関する討論を高橋昭三議員が行いました。また、意見書案についての討論は、太田勝祐議員が行いました。



太田勝祐議員

意見書討論

六月補正に、党の提案が反映

環境、福祉重点の雇用対策予算を計上

六月議会では、高橋昭三府議が議案討論に立ち、二十議案中、国の法改正に基づく住民基本台帳法施行条例や土地収用事業認定審議会設置条例など五議案に反対、一般会計補正予算など十五議案には賛成しました。

六月補正予算には、特養ホームへの補助や学童保育の施設整備費補助などが、「仕事おこし」の観点で提案され、府立学校の小規模修繕費、生活道路の小規模改良事業、府営住

宅の改修や内部整備など、生活密着型の公共事業が盛り込まれました。また、借換融資の延長と条件緩和、舞鶴養護学校建設の設計費・用地費などの予算が計上されています。

高橋府議は、「これらは府民とともに、わが党議員団がこれまでから提案し、要求してきたもので賛成だ」とのべ、府民の切実な願いである子どもの医療費助成の小学校入学前までの拡大や介護保険料・利用料の減免のため、府としての支援措置、三十人以下学級、

日本共産党

有事法制の撤回をもとめ奮闘

自公民

平和、医療、介護など、府民要求に背を向ける

太田議員は、「有事関連法案の撤回を求める意見書」案について、法案の内容が「海外で米軍がおこなう戦争に参戦するために、国民を強制動員するものであることが審議を通じて、ますます明らかになってきた」と指摘。国民と地方自治体の大きな反対世論にこたえ、政府は法案を撤回すべきとのべました。

しかし、同意見書案に反対した自民、公明、民主などの「オール与党会派」は、府民の世論と運動に押され、「慎重な国会審議」を求める趣旨の意見書を提案。党議員団は、「武力攻撃事態対処法案」が中心の内容であるにもかかわらず、有事を「緊急かつ重大な事態が生じた場合」などと、あたかも災害などの場合が含まれるかのようにごまかして、

法案の本質を隠すなど、「賛成できるものではない」として、与党四会派案には反対しました。

また、太田議員は、「医療制度改悪の中止」「診療報酬の再改定」「介護保険の抜本的見直し」「三十人以下学級の早期実施」「住民基本台帳ネットワークシステムの凍結」を求める各意見書案、「法人事業税への外形標準課税導入に反対する」意見書案についても提案理由を明快にのべ、賛同を求めましたが、与党四会派は府民要求に背を向け、これらすべてに反対しました。

ムダと浪費、高速道路優先の「道路特定財源」方式でなく、一般国道、市町村道などの整備を急げ

住宅改修助成などの早期実現を要求しました。さらに高橋府議は、「そのためにも京都市内高速道路など大型公共事業を見直し、ムダをなくす行財政改革を行うべきだ」と強調。

また、「深刻な京都経済、中小企業に大打撃となる外形標準課税の導入を、国に求める知事への態度は改めるべきだ」と指摘。有事法制や医療改悪の問題でも、府民の立場でなく、政府の基本方針に賛成する立場を今議会で明らかにした知事に対し、「このような姿勢では府民との矛盾をいつそう深めるだけ」と厳しく批判しました。

与党四会派は、道路特定財源方式の堅持を求め、高規格幹線道路の早期実現を求める意見書を提案。これに対し、党議員団は、特定財源方式によるムダと浪費の道路建設をすすめる仕組みをなくし、高速道路優先ではなく、一般国道、市町村道、奥地道など生活関連道路の整備を求める内容の意見書を提案。

道路問題での民主党の矛盾した対応を批判

太田議員は、今回の意見書が「高速道路ばかりがよくなって、かつて表街道だった国道九号線は今や裏街道だ」との民主党府議の発声で提出された経過にふれ、同党が、中央段階では「道路特定財源の一般財源化」を掲げている事実（参議員選挙の同党「公約」）も明らかにしながら、民主党が一般国道などの改良を求めるのなら、わが党の意見書にこそ賛同すべきだと、同党の矛盾した対応を批判しました。

今議会に提出された請願・意見書案

●今議会に提出された請願は3件です。審査の結果についてお知らせします

請願名	請願者名	紹介議員 会派	審査 結果	共産	自民	民主	公明	新政
「青少年の健全育成に関する基本法」 の制定に関する請願	子どもの環境を守る会	自民・公明 民主・新政	採択	○	○	○	○	○
公的就労事業に関する請願	自立労働組合京都	共産	不採択	○	×	×	×	×
30人学級・小人数学級実現に関する請 願	子どもと教育・文化を 守る京都府民会議	共産	不採択	○	×	×	×	×

○=採択に賛成 ×=採択に反対

●今議会に提出された意見書案は11件です。その結果についてお知らせします

意見書案名	提案者	賛否	共産	自民	民主	公明	新政
一般国道、府道、市町村道など生活関連道 路等の整備を求める意見書	日本共産党	否決	○	×	×	×	×
道路整備財源の確保等に関する意見書	自民、公明、民主、 新政	可決	×	○	○	○	○
有事関連法案の撤回を求める意見書	日本共産党	否決	○	×	×	×	×
有事関連三法案に関する意見書	自民、公明、民主、 新政	可決	×	○	○	○	○
青少年の健全育成に関する基本法の制定を 求める意見書	厚生労働常任委員会	可決	○	○	○	○	○
介護保険の抜本的見直しを求める意見書	日本共産党	否決	○	×	×	×	×
医療制度改悪の中止を求める意見書	日本共産党	否決	○	×	×	×	×
診療報酬の再改定を求める意見書	日本共産党	否決	○	×	×	×	×
法人事業税への外形標準課税導入に反対す る意見書	日本共産党	否決	○	×	×	×	×
住民基本台帳ネットワークシステムの凍結 を求める意見書	日本共産党	否決	○	×	×	×	×
30人以下学級の早期実現を求める意見書	日本共産党	否決	○	×	×	×	×

○=賛成 ×=反対

KBS

政治を語る

KBS「政治を語る」の、5月は「循環型社会をめざして、環境問題を考える」をテーマに光永敦彦議員、6月は「京都産業の創造と活性化」をテーマに高橋昭三議員がそれぞれ出演しました。以下、その要旨を紹介します。
(小見出しは、番組設定のテーマです)



光永敦彦 議員



「循環型社会をめざして、 環境問題を考える」

5月放映

環境問題に対する現状認識と基本的な考え方

環境問題の中心課題はルールなき資本主義の大量生産、大量消費、大量廃棄など人類の経済活動にあり、これを人類の責任で解決することが二十世紀の緊急課題と述べました。その上で、温室効果ガス削減のルールを決めた「京都議定書」を離脱したアメリカ政府、それを事実上容認した日本政府を批判。また京都府の「地球温暖化対策推進大綱」では、CO₂削減の義務化に反対している産業界の自主的取り組みにまかせている弱点を指摘し、行政の指導性をうなが

しました。

循環型社会に向けての国、京都府の評価、課題、意見

法整備は一定進んだが、家電リサイクル法はメーカーの製造責任、排出責任問わない、容器包装リサイクル法は収集、運搬、保管を自治体の責任としているなど不備を指摘。「循環型社会形成推進基本法」に基づく取り組みの強化や自治体として家庭ゴミの分別などで、住民と協力した独自の取り組みも重要課題だと述べました。

さらに京都府が「ゴミ広域化計画」で大型焼却炉建設を市町村に押しつけているのは、廃棄物を減らすことと逆行していると批判しました。

「京都産業の創造と 活性化」

6月放映

京都の景況感

政府は「景気底入れ」と言うが、家計消費の冷え込み、大企業の縮小・合理化、完全失業率の高さ（京都府はワースト二位）など全国的な指標からも依然、厳しい現状にあると述べ、特に京都は中小企業、伝統地場産業の倒産が前期同期の比べて八・三%増加しているなどをあげました。

京都府の取り組みの評価・提言

京都府は中小企業の比率が高い上、全国的比較でも廃業率が開業率を上回り、不況をいっそ

活性化について

う深刻化している特徴を述べ、行政の真剣な援助、指導が必要と強調。一例として中小企業に対する借り換え融資については業種指定なしに、業績が低下していれば融資の対象にすること、府市が窓口になることなどを提言しました。

京都府への期待

商店街、個々店や卸売市場でも廃業などによる空き店舗が増加。防止対策として経営相談や設備資金の援助、空き店舗対策などの支援強化、大型店の出店規制の必要性など述べました。

高橋昭三 議員

府が「法人事業税の安定のため」と称し、国の外形標準課税導入に期待しているが、七割以上の中小企業が赤字に苦しんでいる時に、利益に関係なく賃金まで課税対象にする悪税で、京都経済をいっそう深刻化し、導入すべきでない」と強調しました。

日本共産党が府議選候補者を発表

日本共産党京都府委員会は、来春の京都府議会議員選挙候補者を発表しました。その内容をご紹介しますとともに、新しく府議会議席に挑戦する予定候補のみなさんの決意をご紹介します。

北区(定数3)	新井 進	現(二期)	伏見区(定数6)	松尾 孝	現(五期)
上京区(定数2)	三木 一弘	現(四期)	伏見区(定数6)	久守かずとし	新
中京区(定数3)	原田 完	新	宇治市・久世郡(定数4)	まえくぼ義由紀	現(二期)
下京区(定数2)	にしわき郁子	新	京田辺市・綴喜郡(定数1)	谷口きよひさ	新
南区(定数3)	山内よし子	新	相楽郡(定数2)	さかい弘一	新
左京区(定数5)	梅木のりひで	現(二期)	長岡京市・之訓郡(定数2)	上坂 愛子	現(三期)
左京区(定数5)	みつなが敦彦	現(二期)	亀岡市(定数2)	ぼばたかし	新
山科区(定数3)	本庄たかお	新	北桑田郡・船井郡(定数2)	小林つよき	新
右京区(定数5)	島田けい子	現(二期)	福知山市・天田郡・加佐郡(定数2)	堀 くに子	新
右京区(定数5)	かみね史朗	元(二期)	宮津市・与謝郡(定数1)	おざき邦男	新
西京区(定数2)	太田かつすけ	現(三期)			

府議選に挑戦するみなさんの決意

京都市中京区



52歳
新

原田 完

物づくり、商業の街として栄えてきた京都経済は深刻な不況です。京友禅地場産業の、市民の暮らしを守るのが行政・政治の責任。地域経済の建て直し、市民が安全・安心に暮らせるまちづくりの仕事をいたします。蛭川知事誕生と共に府民の願い・付託を受けた議席必ず引継ぐ決意です。

京都市下京区



45歳
新

西脇いく子

お金にまつわる汚い政治がはびこる一方で、お年より子どもたち、まじめに働く人々にあまりに冷たい政治に心からの怒りをおぼえます。生命を生み育てる母親の目線で、生命やくらしが大切にされる府政の実現めざして元気いっぱい頑張ります。

京都市南区



48歳
新

山内よし子

花には太陽を、子どもらには平和を!!という歌詞がありますが、加えて、大人には仕事を、高齢者に所得保障を、病人には十分な医療を実現させるために、生活と健康を守る会の活動の経験を生かして、全力でがんばります。

今期で勇退します



三双順子 (南区)



高橋昭三 (下京区)



岩田隆夫 (中京区)



西山秀尚 (伏見区)



荘司泰男 (右京区)



高橋 進 (山科区)

東山区、城陽市、八幡市、向日市、綾部市、舞鶴市、中・熊野郡、竹野郡の候補は選考中です。

北桑田郡・船井郡



48歳
新

小林つよき

北桑田、船井の各地で府民の運動が政治を動かしてきています。いつまでも自民党野中派の好き勝手がまかり通る時代ではありません。

主人公は府民です。私は必ず勝利しこの地域の政治に新風を注ぎ、みなさんの声を府政に届けます。

京田辺市・綴喜郡



45歳
新

谷口きよひさ

一票の格差が府下最大の京田辺・綴喜選挙区。府民の声を府政に届け、自民党府政をチェックする一議席をかちとるため、全力をつくします。

特に教育、福祉、環境問題は、ライフワークとして手がけます。人と自然にやさしいまちづくりのために。

京都市山科区



53歳
新

本庄たかお

「たとえ一人でも障害児の学級を」と、山科のお母さんたちと力合わせ、「一名学級」を実現したことが、政治へ踏み出す一歩でした。

「人の痛みに心を寄せ」を信条に、「弱いものはつぶれて当然」という自民党政治と対決。くらしを応援する政治の実現へ頑張ります。

福知山市・天田郡・加佐郡



52歳
新

堀くに子

「生きることが辛い」「人として普通のくらしがしたい」。

業者のお母ちゃん、こども、お年寄りなど悲痛な叫びをたくさん聞いています。

あたりまえの願いに寄り添い、福天加佐地域の声を直接届ける議員となるため全力をあげてがんばります。

相楽郡



54歳
新

さかい弘一

私はこの7年間相楽のみなさんの願いにぎってはずさず、実現めざして郡内をかけめぐって来ました。

住みよい相楽をつくるため、くらし・福祉優先で住民の利益第一にきっぱりものを言う府会議員がどうしても必要です。全力でがんばります。

京都市右京区



47歳
元(二期)

かみね史朗

私は、森永ヒ素ミルク中毒の被害者として、人の命や暮らしを粗末にするやり方は絶対許せません。人の痛みをわがこととして、国民に痛みばかり押しつける小泉政治や自民党府政ときっぱり対決し、介護保険の減免など、府民の暮らしを守り、中小企業を応援します。

宮津市・与謝郡



66歳
新

おざき邦男

長引く不況で、宮津・与謝の事業所数はこの10年間で約1,000件も減り、住民の暮らしは大変です。地場産業と暮らしを応援する府政が切実に求められています。

豊かな自然を大切に、皆さんと一緒に考え行動していくため市議16年の経験を生かし、全力で頑張ります。

亀岡市



50歳
新

ばばたかし

総合病院の建設、火葬場疑惑の追及、保津橋の安全確保など、住民のみなさんの健康と安全を守るため、住民のみなさんと力をあわせ頑張ります。

畑野の産廃の不法投棄問題をみても、亀岡に住民の立場に立つ府会議員がどうしても必要です。ご支援を心からお願いします。

京都市伏見区



49歳
新

久守かずとし

私は、「住民こそ主人公」という西山ひでたか議員の原点を引き継ぎ、府政の改革、住宅改修助成制度の創設、活気にみちた地域循環型経済と福祉・環境・交通・景観・観光の結合をめざすまちづくりなど、府民の願いを実現するためにがんばりぬく決意です。

京都府議会本会議質問を、 聴覚障害者の九鬼敦子さんが傍聴されました



7月5日に島田敬子議員が行った一般質問を、京都市右京区にお住まいの聴覚障害者、九鬼敦子さんが傍聴されました。

残念ながら京都府議会には、手話通訳の制度がなく、聴覚障害者のみなさんの傍聴は保障されていません。今回は、九鬼さんの要望を受け、日本共産党の京都市会議員 三宅誠孝さんが手話のボランティアを引き受けてくださり、傍聴が実現しました。九鬼さんの傍聴は、マスコミも注目、翌日の京都新聞でも大きく紹介されました。

日本共産党京都府議団は、聴覚障害者をはじめ、障害を持つみなさんが、いつでも議会傍聴ができるシステムをつくるため、取り組みを強めています。

日本共産党 京都府会議員団

- | | | | | |
|--|--|--|--|---|
| 
岩田 隆夫
警察
地域・文化振興 | 
光永 敦彦
厚生労働
環境対策 | 
梅木 紀秀
文教
地方分権等推進(副委員長) | 
三木 一弘
農林商工
少子・高齢化対策 | 
新井 進
総務
地方分権等推進 |
| 
島田 敬子
文教
環境対策 | 
庄司 泰男
警察
広域交通対策 | 
三双 順子
厚生労働
環境対策 | 
高橋 昭三
建設
地域・文化振興 | 
高橋 進
総務
防災・水資源対策 |
| 
上坂 愛子
建設
少子・高齢化対策 | 
前窪義由紀
厚生労働
広域交通対策 | 
松尾 孝
農林商工
地方分権等推進 | 
西山 秀尚
建設
防災・水資源対策 | 
太田 勝祐
文教
広域交通対策 |

上段は常任委員会、下段は特別委員会の所属です。

日本共産党府議団の活動はホームページ<http://www.jcp-kyotofukai.gr.jp/>をご覧ください

新井議員がホームページ開設! <http://homepage3.nifty.com/araisusumu/>